

東日本大震災追悼・復興レセプション（2012年3月7日）

目賀田大使挨拶

- ホセ・ゴンサレス・モルフィン連邦上院議長
- ハビエル・カストロ連邦上院議員
- フアン・ブエノ連邦上院国民行動党副会長
- スサナ・ウルタード連邦下院議員
- 外交団他来場者各位

本日はお越しいただきありがとうございます。

昨年3月11日に我が国東北地方をおそった東日本大震災から、まもなく1年を迎えようとしています。この節目の機会に、改めて大震災で亡くなられた15854名（平成24年3月1日現在）の方々のご冥福及び無数の被災者の方々の一刻も早い回復をお祈りします。また、我が国にとって困難が多かった日々に貴国及び貴国民から寄せられた多大なる支援に対して、心よりの謝意を表します。

メキシコを始めとする世界各国からの温かいご支援を受け、日本は復興と再生に向けて力強く歩み始めました。日本の殆どの地域は震災前の日常の生活に戻っており、安心してビジネス、観光、留学等で来て頂きます。また、近々発効予定の日墨EPA改正議定書により、本日もご賞味頂けるりんご、ミカン、日本茶等も市場アクセスが改善され、以て被災地の経済的復興にも資することが期待されます。

東日本大震災という多大な苦難を経験しましたが、同時にそれは日本社会のしなやかな力強さと国際社会との「絆」の重要性を改めて認識する機会ともなりました。後ほど、震災復興活動に従事し、日本からいらした平野氏の体験についても共有頂ける予定です。

我々は、国際社会からの支援に応えるためにも、震災被害からの開かれた復興・再生、防災、グリーン経済への移行、少子高齢化、高いレベルの経済連携といった諸課題に取り組みます。また、国際社会に対し大震災や原発事故から得られた知見と教訓を国際社会と共有し、人間の安全保障や世界の持続的でインクルーシブな成長の達成といった地球規模の諸課題の解決に向け取り組んでいきます。

最後に、世界中で沸き起こった支援の輪に対する我々の謝意を改めて表したいと思います。メキシコとの関係においては、友好の絆は400年以上もの歴史を有し、メキシコ大震災（1985）といった大災害に際し、その有効性を確認してきました。今次の災害においては、皆様方は、我が身に起こったもののように感じ、「メキシコは、世界は、日本と共にある」と連帯を表明しました。これら我が国に寄せられた多大なる支援に対して、日本国民及び政府を代表し、心よりの謝意を表し、冒頭挨拶とさせていただきます。

以上